

# 第1回 六甲山系夙川地域学習ゾーン検討委員会

## 議 事 要 旨

1. 開催日時：平成21年11月26日(木) 14:30～16:30
2. 開催場所：西宮市教育委員会 3階大会議室
3. 出席者：

### 【委員】

宮田 隆夫	神戸大学理学部教授	構造地質学
香西 直樹	六甲山自然案内人の会 代表	自然
三宅 隆三	西宮自然保護協会	自然・郷土史
山本 實	浜脇・エココミュニティー会議	郷土史・地域代表
矢田 力	越木岩自治会 理事	地域代表
前田 俊樹	西宮市環境局 環境緑化部 環境学習推進グループ	
池内 一男	西宮市教育委員会 学校教育グループ 教育相談員	
砂原 庸孝	六甲砂防事務所 副所長	(事務所長の代理)

### 【事務局】

六甲砂防事務所	星野課長、西山技術員
株式会社エイト日本技術開発	田中、松島、長谷川

### 4. 配付資料

- 議事次第
- 第1回検討委員会資料（資料①～⑥）
- 参考資料 「みんなで語り、伝えよう！芦屋川物語」「主な学習要素（夙川流域）」

### 5. 議 事

1. 事務所長(代理の副所長)あいさつ	・六甲砂防事務所 砂原副所長あいさつ
2. 委員紹介	・各委員、義務局による自己紹介（資料①）
3. 委員会設立趣旨、規約（委員長の選任）	・事務局による説明（資料②）
4. 検討委員会での検討内容・スケジュール(案)	・事務局による説明（資料③）
5. 夙川流域の特性・主な学習要素について	・事務局による説明（資料④、参考資料）
6. 学習ストーリー骨子と散策ルートのポイントについて	・事務局による説明（資料⑤）
7. 意見交換	
8. 冊子における「わかりやすい表現」について	・事務局による説明（資料⑥）
9. 委員長を代行できる委員の選出	
10. 閉会	・六甲砂防事務所 砂原副所長あいさつ

## <議 事>

### ●事務所長(代理の副所長)あいさつ

### ●資料①、②、③ 事務局説明 (宮田教授が委員長に選任)

#### ●質疑応答

(三宅委員)

- ・スケジュールでは2月中旬のとりまとめとなっているが、冊子(印刷物)となるのは4月を想定されているのか。内容の精査には時間が必要であり、特に急ぐ必要はないと思う。

(事務局)

- ・可能であれば、年度内に印刷したいと考えているが、他の河川物語は年度明けとなるのが実状である。
- ・1月上旬には、事前に冊子等の案を提示し、1月下旬の第2回検討委員会で意見交換を予定している。

### ●資料④～⑤ 事務局説明

#### ●意見交換

(宮田委員長)

- ・今回の散策ルートでは、六甲山の方へは行かないのか。

(事務局)

- ・各ルートとも半日程度で回れる範囲を想定し、山側のルートとしては甲山周辺を考えている。

(香西委員)

- ・資料説明を聞いて、魅力的なところがたくさんあり、改めて西宮は素晴らしいところだと感じた。この資料を見ただけで、街あるきや山あるきを試みたくなると感じた。
- ・甲山の説明で、「甲山をつくっている岩石は、安山岩の一種でサヌカイトと呼ばれ…」と書いているが、サヌカイトが安山岩の一種というのは分かるが、甲山の安山岩がサヌカイトだと読めるが、そう受けとっていいのか。

(宮田委員長)

- ・サヌカイトは、広くは安山岩に属すが、瀬戸内に出てくる共通した岩石で、讃岐の名前を使ってサヌカイトと呼んでいる。文章の表現を見直したほうがいい。

(事務局)

- ・甲山ができたのが1200万年前、六甲山が100万年前ということで、六甲山の方が新しいということの説明しようとしているが、どういう表現がよいか。

(三宅委員)

- ・基本的には六甲山があって甲山ができていたので、古い新しいでいうと六甲山の方が古い。六甲山の高さは今に比べて低かったが、六甲山のほうが新しいという説明はおかしいと思う。

(宮田委員長)

- ・六甲山をつくっている花崗岩が形成されたのは、甲山の形成より古い。
- ・当時、甲山の周辺まで海が入っており、堆積した地層が多く見られる。甲山は後で侵食されて今の形になったとみている。
- ・六甲山は、その後100万年前以降に、断層の動きにより盛り上がりきものである。
- ・山が「古い」「新しい」というと表現は誤解をまねくため、避けたほうがよいと思う。
- ・甲山は山の形から、火山の分類で長い間トロイデと言われてきたが、堆積された地層が侵食され中心部の硬い部分が残って現在の形になったと現在は考えられている。外見だけで以前はそう判断されていたことにも触れてはどうか。
- ・夙川地域、西宮には、段丘や平坦な面も広く分布しており、散策ルートの中でも歩くことになるので、特色として紹介してはどうか。

(三宅委員)

- ・六甲山のことがあまり扱われていないという話があったが、鷲林寺から山伝いに芦屋の奥池の方に向かって歩いていくと、西宮市内が一望できる。そのあたりの眺めから、六甲の山から急な斜面と平坦地が階段状に続く特徴や、断層などもうまく説明できるのではないかな。

(宮田委員長)

- ・甲山森林公園のあたりに、花崗岩が風化してマサと呼ばれるような砂状になっている箇所が見られる。甲山のルートの中で見る事ができるので、マサの事にも触れてほしい。

(三宅委員)

- ・夙川が急流である説明があったが、いたるところに段差、JR付近には魚道が設置してある。子どもにとっては、「あれは何?」とか疑問に思うところで、それを説明することで夙川の急流がよくわかるのではないかな。アユの遡上もときどき見られる。

(前田委員)

- ・御前浜、香櫨園浜の呼び方であるが、どう整理したらよいか。

(三宅委員)

- ・人によって呼び方や使い分けが違うと思うので、注意が必要である。

(前田委員)

- ・御前浜、香櫨園浜は、埋立てが多い阪神間の数少ない自然海岸であることを取り上げてほしい。また、住民の保全運動などの結果、自然海岸が残っていることも紹介してほしい。

(宮田委員長)

- ・「なぜ西宮に自然海岸が残ったのか」という子どもたちの疑問にも答えられる。

(山本委員)

- ・香櫨園浜は、阪神電鉄が海水浴場を経営したとき、香櫨園という遊園地の名前を取って香櫨園浜海水浴場と名付けた。それ以降、香櫨園浜と広く呼ばれるようになった。このごろは、昔に返って御前浜ということも多くなっている。
- ・現在、地域団体が海岸の自然を残そうという目的で、「御前浜・香櫨園浜プロジェクト」という名称で活動している。そういう使われ方もある。
- ・御前浜といえば、歴史的にみればお宮さん(西宮神社)の前なので、港を挟んで西浜、東浜と言ったところを全て含むことになり、細かく分けて使い分けするのはむずかしいと思う。

(矢田委員)

- ・越木岩堰堤のすぐ下流に、古い夙川の跡が残っていると聞いている。今のような広い夙川ではなく、もっと幅の狭い川の跡があるらしいので、確認していただきたい。

(山本委員)

- ・西宮神社に関わる事で、傀儡師(くぐつし)は「子」ではなく「師」、「故跡」は「古跡」、ヒルコオオカミの「コ」は「子」ではなく「児」が正しい。また、「御輿屋伝承地」は碑名でいくと「伝説地」の方が違和感がないと思う。

(三宅委員)

- ・P16 ルート図で、①夙川上流緑道と記載されている付近に、越木岩鉱泉跡がある。これも付け加えてほしい。

(山本委員)

- ・同じく、③銀水橋付近水分谷砂防堰堤のあたりに、越木岩神社を追加してほしい。越木岩神社には大阪城築城時の伝説や採石場の跡があり、是非紹介してほしい。

(事務局)

- ・それぞれ3つのルートマップにテーマをもたせ巡れるように考えているが、越木岩神社は、P17

のルート図に入れており、さらに、刻印石や採石場も確認して追加しようと考えている。

(山本委員)

- ・越木岩神社のところに、カッコ書きで「刻印石・採石場・甌岩の伝説」等を記したらどうか。

(前田委員)

- ・散策ルートが3つあって航空写真を使って作られているが、最終的にルート図は「芦屋川物語」のときのように、地図に距離とか時間とかを入れたものになるのか。

(事務局)

- ・最終的には同じ形になる。

(宮田委員長)

- ・P18ルート図に、7000年前の縄文海進当時の海岸の線を入れてもらえるとありがたい。
- ・防災と関係するが、以前の南海地震のとき津波が入ってきているなら、どこまできたか。

(前田委員)

- ・防潮堤があるので何とも言えないが、なければ海拔2mくらいのところまできたのではないか。

(前田委員)

- ・動物とか植物とか、夙川を散策すると考えたときに、何か珍しいものとかないか。

(矢田委員)

- ・夙川短大の北側あたりの夙川では、水がきれいで、モズクガニが年に1回くらい見られる。また、浜にいるザガニを1度見たことがある。
- ・P16ルート図の①②あたりでホタルが見られる。かつて、水分谷のダム付近でカワニナが飼われており、その影響で現在もカワニナが生息し、甲陽線の付近までホタルが見られる状況である。

(前田委員)

- ・動物とか生物の記述が、今回の資料にはないが、どこかに挙げる予定か。

(事務局)

- ・資料P5に動植物の要素を抽出しているが、芦屋と同様に地域の動植物、貴重なものなどを、「西宮の自然」等の既存の資料や専門の方の意見を聞いてとりまとめ、再度専門家の目で確認してもらい、載せて行こうと考えている。その際、写真の提供も併せてお願いしたい。

(前田委員)

- ・夙川周辺では野外体験など盛んであり、使いやすい物になることを期待している。
- ・子どもが使うものは、事例の冊子よりも、刷り増しして使えるサブノート程度のシンプルなものでよいかと思う。子ども全員に配るとなると3万部くらい必要になる。

(香西委員)

- ・夙川の東側を流れる御手洗川(みたらしがわ)は、ふりがな打たないと読めないのではないか。

(山本委員)

- ・御手洗川は、下流にて東川(ひがしがわ)と名前を変えるので、これについても説明が必要では。

(前田委員)

- ・最終のマップ案が出来たとき、ふりがなとかいろいろ要望も出てくると思う。

(山本委員)

- ・P7の香櫨園浜、御前浜の問題であるが、「香櫨園浜」は香櫨園校区の夙川の西の海岸を指す場合がある。海水浴場があったということを書くのであれば「御前浜」の方が誤解がないのでは。
- ・P8の「1-2-4 徳川大阪城のふるさと」は、芦屋のみではなく、西宮にも刻印石の採石場として、甲山刻印石群、北山刻印石群、越木岩刻印石群と3つあり、是非紹介してほしい。あと、岩ヶ平といって芦屋と市域をまたがった採石場がある。
- ・P10の新田開発では、中新田川や御手洗川についても触れてほしい。また、貯水池については

北山貯水池に加え満地谷貯水池（ニテコ池）も紹介しては。

- ・ P11 で、酒屋の建物がでてくるが、宮水地帯の各酒屋はそれぞれ井戸を持っており、宮水庭園のあたりの宮水地帯の説明にて、井戸や夙川伏流水の話に触れては。また、白鹿記念酒造博物館に加え、白鷹緑水苑も紹介しては。
- ・ P11 の2-2-2 で「七つの顔をもつ」項目は、むしろ「文教住宅都市宣言をした街」と「平和非核都市宣言」、「環境学習都市」の3つとした方が、西宮の特色を活かせると思う。
- ・ 次の2-2-3 の芸術・文学では、湯川秀樹、井上靖、火垂の墓に加え、谷崎潤一郎の紹介も必要と思う。また、コラムとして「まんぼう」を取り上げたらどうか。

(香西委員)

- ・ 洋画家の須田剋太(すだこくた)も入れたらどうか。

(山本委員)

- ・ 司馬遼太郎の作品にも西宮が出てくるので紹介してはどうか。
- ・ P12 の西宮神社の祭りでは、「十日まつり」と「ゆかた祭」が中心となるが、「ゆかた祭」は、ひらがなで「おこしや祭」というのが地元では表向きの名称である。
- ・ 西宮では「西宮まつり」が秋祭にあたり、その他、代表的な神事、イベントとして「船渡御」と「かざまつり」が挙げられる。

(池内委員)

- ・ 参考資料の「主な学習要素」では、かなり難しい漢字があるが、最終的に冊子になるときにはルビをふってもらえるか。

(事務局)

- ・ 難しい表現は、わかりやすい表現とするとともに、難しい漢字には、ひらがな表示もしくはルビをふる予定である。

(池内委員)

- ・ それと、略字のところが気になる。たとえば、香櫨園の「櫨」はややこしい字で、我々もよく略して「栲」を書いたものだが、その辺は慎重に考えていただきたい。
- ・ 「行動のためのキーワード」は、非常に重要な文章だと思う。今年の夏休み、理科の作品展の審査員をやったが、「夙川はどこまであるの？」のテーマで、川が海につながっていることを小学2年生の子どもが理解できないことがあった。そんなとき、「行動のためのキーワード」があれば、夏休みの理科実験や自然観察の課題にて活用されるのではないかと思う。

(宮田委員長)

- ・ 満地谷累層の紹介があるが、以前は「累層」という言葉を使っていたが、最近は「累」をとって「層」と地質学の方では使うようになっている。今回はじめて出てくるので、新しい使い方に変えていただきたい。以前はこう呼んでいたと書いてもよいが。
- ・ 甲陽断層の写真として、芦屋では白黒写真を使ったが、カラー版があるのでこれを使ってほしい。
- ・ そのほか、表現の訂正、誤字、内容の追加などがあると思うが、まだ最終のものではないので、事務局の方に連絡いただいて次回また討議したい。

## ●資料⑥ 事務局説明

(池内委員)

- ・ 表現の検討は、今日の資料について行えばよいか。

(宮田委員長)

- ・ 次回までに、実際の冊子、ルート図、サブノートの案を事務局が用意するので、それを基に検討していただきたい。

●委員長を代行できる委員の選任（香西委員が選任）

●閉会挨拶

（砂原副所長）

- ・今日頂いた貴重な情報、ご意見をもとに、よりよい「夙川物語」を作りたいと思う。スケジュールの面でもきびしいものがあるが、今後もよろしくお願ひしたい。